

『考古学研究』 投稿案内

2024年5月11日改訂, 2024年6月1日施行

会誌『考古学研究』は、日本の考古学の創造的発展のため、活発な議論の場となるよう、意欲的な投稿を幅広く募集しています。国内外の考古学研究の最前線に立つ斬新で挑戦的な論考、昨今の考古学に対する展望、地域の歴史や文化財に関する時事、関連する諸問題に関するご意見、ご提案など、会誌の充実に向けて、積極的にご参画ください。

①投稿資格

投稿は会員に限ります。共著の場合は第1著者あるいは第2著者が会員であることとし、実質的に原稿の執筆に関わった人のみを著者としてください。言語は日本語とします。

②原稿の種類・頁数

論文: 考古学・文化財・隣接科学に関するオリジナルな視点や考察・展望を議論するもの。タイトル・要旨英文要旨を含め25ページ以内。総説・論説も認める場合がある。

研究ノート: 考古学・文化財・隣接科学に関する試論、予察、着想、実験的研究など。タイトル・要旨英文要旨を含め12ページ以内。

展望: 考古学に関する国内外の学会・研究動向報告、学会・研究会等への参加報告、会員による各種活動報告、文化財問題、歴史教育など考古学に関わる諸分野の問題提起、地域の考古学に関する話題提供、学史の紹介。5ページ以内。

資料紹介: 集成資料の公開や新たに作成された図版などの開示。5ページ以内。

考古フォーカス: 会員にとって有益な知見を伴う国内外の遺跡・遺物の紹介、視覚的情報が重要な研究成果、調査速報など。3ページ以内。巻頭用にカラー写真を必ずお送りください。

書評・新刊紹介: 新しく刊行された書籍などについての批評・紹介。書評の場合は3ページ以内、紹介の場合は1ページ以内。

たより: 研究紀行、回想、イベント、刊行案内等。1ページ以内。

会員つうしん: 意見、近況、消息、カットなど。400字以内。

▶本誌は紙面およびデジタル形式[※]による発行とします。考古フォーカスの巻頭カラー写真以外は原則として白黒印刷です。ただし、実費(先払い)にて、論文、研究ノート、資料紹介、展望のカラー写真を本文中に掲載することも可能です。投稿時にご相談ください。
注) デジタル形式は、環境整備が整った場合の運用となります。

③原稿の作成方法

▶版面はタテ20.5cm・ヨコ13.5cmですので、図・表はキャプションを含めてこの版面内に収まるように設定してください。1ページはB5判横書きで、論文・研究ノートは1段組み1,596字(42字×38行)、それ以外は2段組み1,760字(22字×40行×2段)です。なお各原稿の先頭にはタイトル・要旨等のため、版面から論文・研究ノートは11cm、展望は4cm、その他は3cmを見込んでレイアウトをお願いいたします。

す。段組みの変更は一切認められません。本会ホームページにワード文書の雛形が用意してあります。ご利用ください。

▶規定ページ数には、図・表を含むものとします。

▶論文・研究ノートの場合は、和文要旨(300字以内)および英文要旨(300語以内)と、キーワード(時代、地域、研究対象などの単語で、検索可能な一般的なものを)を和文・英文とも5語以内で添付してください。ただし編集委員会で修正することがあります。なお、要旨の英訳を編集委員会に委任する場合は、英文要旨用の和文原稿(600字以内)を添付してください。

▶注と引用文献は区別します。注は、本文中該当箇所の文字の右肩に注見出しとして通し番号をつけ論考末に番号順に列記してください。引用文献は、本文中の該当箇所に編著者および発行年をカッコに入れて記し、注の後に、日本語文献は編著者の50音順で、外国語文献はアルファベット順で列記してください。表記方法の詳細は下記の例を参考にしてください。本文に引用されていない文献を参考文献として一覧に記載することはできません。

▶挿図等はデジタル、手書きのどちらでも可能です。手書きの場合はトレースしたものをお送りください。

④原稿の送付

▶投稿に際しては「原稿送り状」を添えてください。

「原稿送り状」は会のホームページでのダウンロードまたは事務局への連絡により入手してください。本会ではご氏名のローマ字表記はヘボン式を基本とし、長母音にはōやūなどの長音記号を用います。異なる表記をご希望の場合は、必ず原稿送り状にご明記ください。また外国籍の方の場合は必ず正しいローマ字による表記をご記入ください。

▶投稿は、本文・図・表なども含め、完全原稿でお願いいたします。原稿の提出に不備があった場合や、完全でない場合は原稿を返却させていただくことがあります。投稿後、査読中や編集委員会での検討中に、内容を変更したり、修正したりすることは認められません。

▶縮尺の表示および原稿への挿入位置を示した割り付け見本(印刷物あるいはPDF文書)を必ずお送りください。なお図・表等をデジタルで作成し、本文データ中に貼り付けた場合には必ず元データと打ち出し原稿も添付してください(元データはサイズ変更等の必要はありません)。

▶考古フォーカスで海外の遺跡・遺物をご紹介いただける場合、遺跡名、博物館などの付随施設名、関連する人名などについて、必ず一般的なローマ字表記をご明示ください。

⑤原稿の受付

▶送付された原稿について、①から④の内容を事務局・編集委員会で確認し、投稿規定に則った原稿であることが確認された場合、原稿を受領いたします。

▶他の学会誌、単行本その他のあらゆるメディアに掲載済み、または投稿中の原稿は受領することができません。これには他言語で執筆されたものも含まれます。また編集委員会において掲載済みの原稿と同じ内容を多く含むと判断された場合も受領できない場合があります。

- ▶受領した原稿のうち、論文・研究ノートは編集委員会が内容を確し、研究分野の近い専門家2名以上に査読を委嘱します。その後、査読結果を編集委員会が審議し、常任委員会の承認を経て、掲載の可否を決定いたします。掲載が決定した場合には、編集委員会から原稿受理の正式なご連絡をさせていただきます。査読者を公表することはいかなる場合もありません。
- ▶受領した原稿のうち、論文・研究ノート以外の投稿では査読は行いません。編集委員会が内容を検討し、常任委員会の承認を経て、可能な限り迅速に掲載の可否を決定いたします。掲載が決定した場合には、編集委員会から原稿受理の正式なご連絡をさせていただきます。
- ▶掲載時期は編集委員会にご一任ください。
- ▶本会では投稿規定に則った原稿を受け付ける「原稿受領」と、査読や常任委員会の承認を経て原稿の掲載を決定する「原稿受理」とを区別しています。「原稿受理」のご連絡をもって、掲載決定の通知としてご理解ください。

⑥校正・抜刷・著作権

- ▶著者校正は1回のみとします。校正時における行を超える文章の変更は、原則として認めません。なお、校正時に必要な原稿のコピーなどは各自お持ちください。
- ▶抜刷は進呈しておりません。各自で印刷、配布が可能な状態のPDF文書を送付いたします。抜刷をご希望の方は実費（前払い）にて、ご購入いただけます。
- ▶原稿・図版は原則として返却いたしません。返却希望の場合はあらかじめお知らせください。
- ▶本会刊行物の掲載論文や記事などの著作物の著作権者は各著者といたします。
- ▶論文や記事の執筆に際しましては、著作権法を遵守し、原著作物の図・表の引用に際しては、全て著者

の責任において原著作権者の許諾などの確認を行ってください。

- ▶なお、本会が事業として著作物を複製する場合やホームページ等で公開する場合は、改めて各著作権者に対し、各種の権利の確認と承諾を経て行うこととします。
- ▶また、刊行物のそのままの編集形態（デジタル形式を含む）での転載や再利用は、原則として本会での刊行後1年間はお控えください。また、1年を経た以降の転載や再利用の際にも、本会へのご連絡をお願いいたします。
- ▶本会の刊行並びに公開は、収益を目的とした事業としては行っておりません。そのため、著作に関する謝礼や執筆料はお支払いできないことを予めご確認ください。

⑦原稿送付先

〒700-0027 岡山市北区清心町16-37 長井ビル201
考古学研究会 宛

- ▶書留郵便または宅配便でお送りください。
- ▶原稿の送付は本会 Website の投稿フォームでも受け付けます。
- ▶デジタルデータおよび電子媒体でのご入稿の際のご注意：

- ・原稿テキストはワード文書ファイルにてご入稿ください (.docx あるいは .doc)。
- ・写真は TIFF あるいは JPEG フォーマットで、300dpi 以上の解像度のものをご用意ください。巻頭カラー用の写真以外は原則白黒で印刷されますので、グレースケールへの色設定はご自身で行ってください。
- ・図面の場合は1000dpi 以上のものをご用意ください。
- ・以下のファイル形式のようなコンピュータ上の処理用に出力された低解像度フォーマットでは受理することができませんので、ご注意ください (GIF, BMP, PICT, WPGなど)。

注および引用・参考文献の表記方法

注 この鏡式¹⁾は2例が確認されている²⁾。(該当箇所本文の右肩に右半カッコで通し番号を付けます。)

引用文献

<本文中>

A例：遺跡分布の変動を分析した(吉田1985, pp. 31-44)。

B例：文様の解釈(文献7, p. 16)については異論もある(文献9, 文献22)。

* A・Bいずれの表記方法でも結構です。引用箇所が明確な場合はそのページ数を記します。

<文末>

荒川 史・杉本 宏(編)1992『五ヶ庄二子塚古墳発掘調査報告』宇治市文化財調査報告第3冊 宇治市教育委員会

河村好光 2000「ヒスイ勾玉の誕生」『考古学研究』第47巻第3号, 44-62頁

関 雄二 1997『アンデスの考古学』世界の考古学1 同成社

Carneiro, R. 1990. Chieftdom-level warfare as exemplified in Fiji and the Cauca Valley. In *The Anthropology of War*, edited by J. Haas, pp. 190-211. Cambridge University Press, Cambridge.

Dark, K.R. 1994. *Civitas to Kingdom*. Leicester University Press, London.

Thomas, J. 1991. Neolithic explanations revisited: The Mesolithic-Neolithic transition in Britain and south Scandinavia. *Proceedings of the Prehistoric Society* 54, pp. 59-66.

*本文中表記がA例の場合は、編著者の50音順またはアルファベット順に列記します。B例の場合は各文献の頭に通し番号(カッコなし)をつけます。

*雑誌論文は掲載ページ数を記します。なお、文末注および引用文献の部分の字数は、1ページ2,300字(50字×46行)です。